

たけのこ生産者のみなさんへ

今年もタケの葉を白変させるチョウ目害虫の被害が拡大中 早急に防除対策を検討してください

昨夏、京都乙訓管内のタケノコほ場では、チョウ目の害虫である「シナチクノメイガ」の被害が拡大し、問題となりました。

本年も、6月下旬頃から、タケの葉にかすれ状の白変とチョウ目の幼虫が確認され、7月には一部ほ場において昨年と同様に白変が拡大していく症状を認めました。

現在発生中のチョウ目害虫の種類については、被害の状況から「シナチクノメイガ」が発生していると推察されます。虫種については、現在京都府農林センターで種の確認を進めているところです。

生産者のみなさんもタケノコほ場について観察していただき、「シナチクノメイガ」が発生している兆しを確認した場合には、令和7年1月15日付けで当センターが配布した資料の内容にしたがって防除に当たることを検討してください。



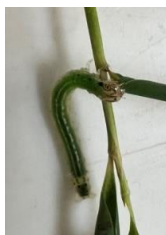
①被害ほ場の状況

枝葉が白変し、徐々に周辺に被害が拡大している。



②被害初期の枝葉

葉が斑入りのかすれ状に白変する。これが徐々に拡大し、葉全体が白変していく。



③発生中の幼虫

写真は中齢期と考えられる時期。幼虫は糸を吐き、生息密度が高いとぶら下がっている個体も見られる。

令和7年7月14日
京都府京都乙訓農業改良普及センター